

## 第2回江別市行政審議会 会議録（要点筆記）

日 時：平成25年3月27日（水） 18:00～20:50

場 所：江別市民会館 21号室

出席委員：押谷委員、河西委員、佐藤委員、隼田委員、安孫子委員、梶野委員、徳永委員、藤本委員、町村委員、阿部委員、蛭名委員、白鳥委員、湯浅委員、岸本委員、草野委員、高儀委員（計16名）

事務局：鈴木企画政策部長、米倉企画政策部次長、川島課長（政策調整課）、西田参事（総合計画担当）、村田主査（総合計画担当）、長谷川主任（総合計画担当）

### 開会（佐藤会長）

お手元にある次第のとおり、今日は議事として大きく分けて4つあります。特に3番目の「新しい江別市総合計画骨子（たたき台）について」を中心に、みなさんと議論していきたいと思っています。時間がかかるかと思いますが、できるだけ9時前には終了したいと考えていますので、ご協力よろしくお願いします。

### 議事

#### （1）第1回行政審議会での質疑事項について

湯浅委員

市外の人から見た江別市の評価がわかる資料として、市町村のランキングがあったが江別市は入っておらず、特徴のある有名な市町村がランキングに入っているとのことでしたが、道内ではどういった市町村がランキングに入っているのでしょうか。

事務局

住んでみたいまちでは、札幌市・富良野市・函館市が上位に入っています。

#### （2）今後の行政審議会の進め方について

（意見・質疑等なし）

#### （3）新しい江別市総合計画骨子（たたき台）について

佐藤会長

計画骨子のたたき台について事務局から説明がありましたが、このあとの第3回・第4回会議でも審議を行う予定で、今日の議論で結論を出すということではありませんので、幅広くご意見をいただきたいと思います。

#### < 「 基本的な考え方」について（1～2ページ） >

隼田委員

2ページ目の図を見ると、総合計画と個別計画と施策展開方針の関係性や流れが非常

に分かりやすい。特に、総合計画の方針にあわせた個別計画で実際の事業を進めていく過程で、毎年度P D C Aサイクルによって見直していくということが書かれているのは良いことだと思います。先ほどの事務局の説明の中で、施策展開方針を各部局で作成し、それをP l a n・D o・C h e c k・A c t i o nのP D C Aサイクルにのせて進めていくということでしたが、総合計画との整合性をチェックする過程で、どこがチェックするのかが明記されていません。部局ごとにチェックするのも当然必要ですが、総合計画に則ってきちんと進められているのかどうかを、もう少し全体的な視点からチェックするようなことも明記していただければ良いと思う。

事務局

P D C Aサイクルの部分を総合計画全体として、内部の視点の他に外部の視点も含めてきちんとチェックするようなシステムを明記した方が良いのではないかとご意見かと思えます。現在も外部評価委員会がありますので、そういったことも含めて新しい総合計画の中でも内部のチェックはもちろんのこと、外部の視点から見て総合計画の進め方をチェックしてもらうようなシステムを考えていかなければならないと思っていますので、記載について検討します。

河西委員

施策展開方針をチェックするのは、一義的には市議会ではないかと思えますが、そのあたりについてはいかがでしょうか。

事務局

施策展開方針を実際にどこがチェックするかということですが、確かに市議会にも施策展開方針をどのように進めているか報告し、それについてのご意見をいただきながら進めなければならないと考えています。ただ、市議会への報告については施策展開方針だけでなく、総合計画をどこまで具体的に進めているかということも含めて報告しながら進めていかなければならないと考えています。

河西委員

そうすると、市議会が総合的にきちんとチェックをするという民主主義の基本は守られるということですね。

事務局

そのルールは当然守っていきたいと考えています。

白鳥委員

この種の計画で一番難しいのは、個別計画をどのようにはめ込んでいくかということと、そのチェックをどうするかだと思います。「まちづくりの様々な分野ごとに具体的な施策や事業を定めた個別計画を（以下略）」と記載してありますので、事業を定めた個別計画が必ず出てくるという想定だと思いますが、これがいつも実現できないのは、総合計画のどこに関連付けられた個別計画・事業なのかというところが問題になるからです。マトリックスを作ってみると、空白の部分が絶対に出てきますが、その空白部分

はどうするのでしょうか。

事務局

ご指摘のとおり、個別計画というものは現在でも既にあり、新しい総合計画の策定後は総合計画の方針に合わせて個別計画も見直していきますが、一方で個別計画を策定することが馴染まない分野もあり、実際に14ページから記載している「まちづくり政策」のところで、表の右側の個別計画の欄が空白になっているものもあります。個別計画が無くても、例えば内部的な設備の更新計画などはもちろんありますが、具体的にそれを総合計画に関連する個別計画と位置付けるのは難しい部分もありますので、空白部分が出てくる可能性はあります。そういった個別計画の無い空白部分については、施策展開方針の中で明記して実効性を担保していきたいと考えています。

湯浅委員

既にある個別計画が現在進行中で、国の法律や制度に基づく計画があったり、始まった年代もそれぞれ違ったりしています。理想的なことを言えば、総合計画は年度ごと、あるいは前期・後期などの節目に評価をして、社会情勢の変化によっては新たなものを追加するなどして、次の施策を形づくっていくべきです。そういう意味では、既に進行している個別計画は計画の期間などもまちまちだと思いますので、総合計画との整合性をきちんととらなければ、厳密に総合計画と個別計画の評価をするのは難しいと思います。既に進行している個別計画を全て一度につくり直すということにはならないと思いますが、整合性をどうするかということについて、どのように考えているか伺いたいと思います。

もう一つ、16ページの協働の分野の主な個別計画の欄に「江別市自治基本条例」とありますが、これは他に記載してある個別計画とは性格が異なり、江別市の市民自治を高めていくために制定されたものですから、総合計画の大前提になるものではないでしょうか。それと、15ページの安全・安心の分野について、江別市地域防災計画や江別市水防計画は「3 消防・救急の充実」と関連が深いので、その中で火災や万一の時の救急救助体制・消防体制といったことも位置付けされるのではないのでしょうか。

事務局

まず1点目の個別計画と総合計画の関係性について、既に進行中の個別計画を新しい総合計画ときちんと整合性をとっていくのは難しいのではないかとのご質問かと思いますが、確かに、既に進行中の個別計画の見直しをいつ行うのかという問題もありますが、総合計画が出来上がった後に見直しの時期がくるものについては、総合計画の方針に合わせて見直していくことを考えています。卵が先か鶏が先かという話になってしまうかもしれませんが、実際に進行中の個別計画がありますので、逆に総合計画の記載内容が個別計画を踏まえたものになるという部分もあると思います。ですから、いずれにしても総合計画の方針に合わせて個別計画が動いていくようにしていきたいと考えています。

2点目の江別市自治基本条例については、確かに個別計画というより、市全体の基本理念にあたるものですので、こちらに記載するのが適当かどうか判断に迷った部分では

ありましたが、「協働」の分野に自治基本条例に関する取り組みを新たに追加したため、参考として記載させていただきました。江別市地域防災計画と「3 消防・救急の充実」との関係について、地域防災計画の中に位置付けられている市民の安全・安心に対する取り組みといったものは、火災予防対策や救急救助体制と密接に関わってきますので、今は空白で記載していますが、「2 地域防災力の向上」の欄と同じように地域防災計画と水防計画を再掲で「3 消防・救急の充実」の欄にも記載して、それぞれが関係しているということを整理させていただきたいと思います。

佐藤会長

個別計画の見直し時期や、現在進行中の計画との整合性の話が出ていましたが、2ページのところに記述を追加しますか。

事務局

図の中の個別計画のところに、具体的に総合計画に合わせて見直していくという記載が今の段階ではありませんので、その部分について表現を考えて記載したいと思います。

#### < 「1 江別市を取り巻く社会動向」について (3～5ページ) >

安孫子委員

製造品出荷額等の推移について、平成19年から平成22年にかけて減っていますが、この4年間の物価水準の調整をしていない数字でしょうか。

事務局

物価水準の調整をしていない、生の数字で出荷額を記載しています。

安孫子委員

当然、デフレが続いていましたので、物価水準の調整を加味してこれだけ出荷額が減ったのだとしたら大変なことだと思いました。

6ページに高齢化が進むと同時に生産年齢人口が大幅に減少するという記載があります。これだけ減少すると、誰が稼ぐのかという話になると思いますが、この生産年齢人口の減少への対応について、まちづくり政策の中に記載されているのかどうかは気になりました。「産業」のところに記載されているのかと思いますが、この程度の対応ではとても追いつかないのではないかと懸念します。

それと、今後どのようなことに取り組んでいくかについて色々と記載されていますが、それを裏打ちする財源的な問題はどこかでシミュレーションしながら取り組んでいくのでしょうか、そうではなくて、あくまでもやってみるということなのでしょうか。総合計画を立てるときにはどのような見通しで取り組むかということが重要で、財源の裏付けがあって実際にできるのかどうかということが問題になるかと思いますが、その辺りのことを説明していただけますか。

事務局

生産年齢人口が21.3%も減るとするのはとても大きな問題だと認識しています。そのことに総合計画でどのように対応していくかということについての考え方ですが、1

2ページの「(3) 将来人口の考え方」のところに記載しておりますように、人口が減少する見込みではありますが、それをただ手をこまねいて見ているのではなく、「10年後の人口については、江別が持つ特性や優位性を最大限に生かした戦略的な取り組みを展開して、これからの江別の元気を支えていく子育て世代を中心とした生産年齢人口の転入を促進するとともに、定住環境を高めることにより、推計人口よりも多い、現在の人口規模を維持することをめざします。」と記載しています。生産年齢人口である子育て世代の人たちにできるだけ江別に住んでもらえるような取り組みを行っていくことで、現在の人口規模を維持し、また生産年齢人口も減少しないように取り組んでいきたいという考えをここで示しています。

こういった取り組みについては、確かに財政的な裏付けがないと総合計画の中で事業を組み立てていくことは困難ですが、新しい総合計画については、あくまでも市全体の取り組みの方向性のみを定める形に留めて、具体の事業までは記載しないという考え方を基本としています。そのため、具体的な事業については毎年度見直しを行いながら予算を組み立てていく形になり、その中でスクラップアンドビルドを行って、個別計画と施策展開方針の中で必要な手立てを明確にしながらかち出していきたくて考えています。

#### 安孫子委員

たぶんこのような取り組みは江別市も考えているし、近隣の市でも考えているし、全道各地・日本全国でも考えられていることだと思います。そして、利便性の良いところに人口がどんどん集約しているというのが現状です。ですから、それをさらに上回って江別市が魅力的なものをつくるというのは、それはそれで考え方としては良いのですが、それだけを打ち出して対策は十分だと言ってしまうのはまずいと思います。生産年齢人口が減少して、かなり厳しい状況になることを想定したやり方を考えておく必要があるのではないのでしょうか。単に人口流入に期待するというだけではまずいし、そのような取り組みは周辺の自治体の計画でも同じようなことが書かれてしまって、人口の奪い合いになるということが結果として出てきてしまいます。人口が減少して厳しい状況になるというのは、自治体としては言いづらいことかもしれませんが、我々市民も覚悟しなければならないことだと思います。

財源的な裏付けについては、これまで総合計画を進めてきた中でどの分野にどれだけお金を投入してきたかということは結果としては見えるわけですから、それを踏まえて将来の新しい計画に基づいてどのようにお金が投入されていくのか、またそれによって実現できるかどうかという問題が出てくるのではないのでしょうか。個別の事業費の積み上げをしないと計画の全体が見えないと思います。そうでないと、総合計画が単なる文言の羅列に終わってしまうのではないかと懸念します。

#### 事務局

たとえば地方交付税がいくら入ってくるのかということなどは来年の見通しすら立たない状態ですし、財政的な将来の見通しについて今の段階で10年後の話をするのは困難な状況です。今までの江別市の予算の立て方は極めて現実的に、また起債も一定程

度制限をかけて、必要な起債はしてもそれが膨らまないように留意し、毎年度の償還額も一定程度に抑えながら残額を減らしていくというやり方で取り組んでおり、全国的に見ても、厳しいながら安定した財政状況を維持しています。このような状況のため、個別計画や事業を積み上げていって財源がいくら必要かということを経済から想定して取り組んでいくことは非常に困難を極めます。また、そうしてしまうと逆に事業や財政の硬直化を招く結果にもなりますので、予算の組み立てとしては毎年度春先からスタートして秋の11月くらいまでの間に各部局から次年度に向けた事業展開をどうするのか、それは総合計画とどのように関連付けられて、具体的に総合計画のどの分野を進めるための予算要求なのかを明確にした上で、理事者とのヒアリングを経て絞り込んで予算付けをしていくという流れとなっています。職員もその流れを理解して、本当に必要な予算の取捨選択をしながら予算付けをしているのが実態です。そのような予算の財政的な流れは今後も変わらないと思いますので、安孫子委員からいただいたご意見も含めて、これから財政面と総合計画の整合性が取れるように対応していきたいと考えています。

白鳥委員

5ページの市民協働の部分で、「自治体の財政状況も厳しく、多様な市民ニーズ全てに対応していくことも難しい状況が続いています。」とあります。これは裏から読むと、財政状況が厳しいので市民対応ができませんと言っているように見えますので、もう少し巧い表現があると思います。

## < 「2 江別市の現状」について（6～10ページ） >

河西委員

3ページから5ページが日本全体のマクロの話で、それ以降が江別市に限定した話になっています。そこに使われている比較的類似したデータをマクロのところと江別の現状のところと比較しやすいようにしてほしいです。たとえば、3ページに「日本の階層別人口の推移と推計」があり、これはパーセンテージでの表記になっていますが、一方で、6ページの江別市の現状のところの「江別市の将来人口推計」は実数になっていますので、ここにパーセンテージをつけるなどして比較しやすいようにしていただけると良いと思います。

事務局

江別市の現状と全国的な動向のデータについて、比較のしやすさという点に気をつけて再度見直します。

蛸名委員

TPP交渉に日本が参加するということになったことを受けて、特に北海道の農業への影響が大きいのではないかと報道されています。まだ交渉に参加しただけの段階ではありますが、新しい総合計画の戦略的な部分に影響が出てくる可能性があるのではない

かと思えます。10年先を見据えた計画ですから、どうなっていくか全くわからないことではあるかと思えますが、TPPの影響についてどのようにお考えでしょうか。

事務局

TPP交渉参加によって北海道の経済に与える影響というのは大きいものですし、日本全体においても大きな影響があるものだと考えています。実際に江別を取り巻く現状の部分に、そういった最新の動向を記載するか迷ったところではありますが、TPP交渉によって具体的に何がどうなるということが、現段階ではなかなか見えないことから記載しかねる部分があり、今後10年間についてそこまで見通すことは今現在では難しいと判断し、記載しなかったところです。ただ、今後TPP交渉の結果によってどういった部分に影響があるかということがもしわかるようであれば、そういった影響も含めて記載の見直しを再度しなければならないほど、大きなテーマであると認識しています。

### <「3 めざすまちの姿」について(11～12ページ)>

町村委員

11～12ページを読んで受ける印象ですが、まちを住みよくして人口を維持して、そこに住む人の食い扶持というのは極端な話、札幌などに出て行って稼いでもらおうと言っているように読めてしまい、ちょっと迫力不足なまとめ方ではないかと感じます。江別自体の産業が活性化して、江別で生活して江別で食い扶持を得て生きつづけていくことができるようにするという意気込みがもう少し感じられるようなまとめ方になると良いのではないのでしょうか。というのは、これ以降の部分では、どんどん産業分野のテーマについての記述が深められています。暮らしやすさというのはもちろん大切なことで、行政としては1番のサービス事項であると思いますが、最終的に産業分野に重点的に取り組むという記述をするのであれば、やはりこの「3 めざすまちの姿」の記述の段階で、江別市における産業というものをどう考えていくかという部分をもう少しきちんと書き込むつくり方にした方が良いのではないのでしょうか。

蛸名委員

11ページの(1)の2行目「そこに暮らしているすべて市民の幸せになることが」とありますが、「すべての市民が」ではないのでしょうか。表現がおかしいので、より良い表現なるように修正してください。

もう1点、前回の会議で除排雪についてはどうなるのか質問させていただいたところ、まちづくり政策では取り組むが、戦略には入っていないとお答えいただきましたが、先月の54cmの大雪のときに、江別市のせいではないが江別駅でJRが立ち往生したということが全国的にニュースで報道されました。今、子育て世帯に江別市に住んでもらって人口を維持すると話し合っている中で、すごく江別市のイメージダウンになってしまったと感じました。その後の除排雪の対応は良く、それほど不便はありませんでしたが、快適な暮らしができるまちであるというために、安全・安心の分野なのか、どこの

分野になるかわかりませんが、除排雪についても盛り込んでいただきたいと思います。

阿部委員

「3 めざすまちの姿」のところで「安心して暮らせるまち」であるとか「活力のあるまち」であるといっても、将来的には4割近くの人が高齢者になるという推計が出ていますので、高齢者に対してどういうまちづくりを目指していくのかということについて、もう少し具体的な中身に踏み込んだ表現が必要ではないかと思います。

白鳥委員

12ページに「(4)今後の土地利用の方向性」とあって、コンパクトシティを目指していくというようなことが記載してあります。これは最近どこの街でも必ず言っているフレーズです。では、どういうコンパクトシティなのか、というところのイメージをもう少しはっきりさせるべきです。そして、これは必ず政策の裏打ちがないとできないことです。たとえば都市計画的に用途地域をどうするか、交通計画をどうするかなどの基盤整備の話にも繋がってきます。簡単にコンパクトシティと言っても、総合計画の中に、あるいは付随する計画・関連する計画の中に書き込まなければならないことがたくさん出てくると思いますので、きちんと覚悟して力を入れてやっていただきたいと思います。

それと、11ページの「(2)めざす10年後の将来都市像」に、仮置きでキャッチフレーズが記載してあります。これは素案ができた段階で市民に公募してはいかがでしょう。そうすれば、素案の中身を市民がきちんと読んでくれますし、この審議会や市議会の場で議論するよりも良いのではないかという気がしましたので、提案させていただきます。

岸本委員

「3 めざすまちの姿」や13ページの政策体系の記載は、行政側の視点であり、どうしても住民サービスの内容で、住民から見て住みやすいまちという発想になっていると思いますので、もう一つやはり江別で稼ぐ部分は何なのかというところが必要ではないでしょうか。顔がないまちであるのが特徴の江別市とか、通り過ぎるまち江別など、特に市外の人から色々と言われてきましたが、今までのような時代と違ってこれからの10年を考えるわけですから、人口規模も変わっていきますし、右肩上がりの時代でもありませんので、これから先は今までと違う何かパンチを効かせた表現を記載してほしいと思います。全然文句をつけるところがないのですが、逆に今までどおりの総花的な内容で良いのかが気になりました。だからどうすべきだということは、今はまだ言えませんが、それを考えていくのがこの審議会なのかなと考えています。

河西委員

町村委員や岸本委員がおっしゃっているパンチを効かせる表現というところは、おそらくこの総合計画では「えべつ未来戦略」の部分だと思います。「えべつ未来戦略」は

17ページからですので後から議論になると思いますが、その中にある「えべつの将来を創る産業活性化」とか、「江別の魅力発信シティプロモート」といった戦略の部分でパンチを効かせることで、総合計画として強調することは強調するという役割分担をしているのだと私は理解しています。

隼田委員

私もみなさんがおっしゃっていたパンチを効かせる部分ですとか、何かアピールするものが足りないということを感じています。11～12ページのところでそれを表現すべきなのか、13ページの「4 まちづくりの基本方向」の最初に一文追加すべきなのか、それとも河西委員がおっしゃったように「えべつ未来戦略」のところで協調すべきなのか、悩みながらみなさんのご意見をうかがっていました。人口が減っていき、生産年齢人口も減っていき、高齢者が増えていきます。市民アンケート調査結果を見ると、期待する将来の江別市のイメージとして「福祉のまち」、「安全のまち」、「健康のまち」、「子育て応援のまち」というのが上位の4つで、6割近くが高齢者に配慮した「福祉のまち」となっています。一方で、歩いて行ける範囲に必要なと思う施設では、おそらく札幌に出て働いている人が多いであろう30代・40代の若い世代だと、JR駅が3位に入っていたり、コンパクトなところが良いという意見が多かったりします。市民会議の中でもコンパクトシティの話はたくさん出ていました。コンパクトシティというのは、さきほども議論がありましたが、どこの街でも言っていますし、魅力のある街にして人口流入を少しでも増やしたいということも、どこの街でも考えていることですので、この江別という土地の特色を考えて、それを具体的なまちづくりに持っていけるような絵を描くことが、今回の総合計画ではとても重要だと思います。たとえば、コンパクトシティといってもどういうコンパクトシティなのかといったときに、大雪でJRが立ち往生したという問題もありましたが、JRが止まったときは江別だけが止まったわけではなくて、あちこちで止まっていました。何をやっているのだらうと思う反面、雪が酷かったのは札幌も江別も同じです。そういう風に考えると、どこも同じ土俵の上にあるわけで、江別のデメリットとは言い切れません。一方で、ベッドタウンとしての江別を考えると、JRを利用すれば札幌の都心部に極めて近いです。地下鉄からバスに乗らなければならないような、中央区のちょっと不便なところよりも早く札幌の中心部に到着できます。ですから、そういう長所をきちんと明らかにして、その上でどのような夢が語れるのか、単なる絵空事ではない実現性のある夢が語れるのか、どういう計画が立てられるのかということが重要だと思います。それがおそらくパンチを効かせることにつながってくるのではないかと思います。ですから、コンパクトシティがどんなコンパクトシティで、どんな個別計画につながっていくのかということは、もう既に進行中の個別計画もあるわけですから、それとしっかりリンクさせて、駅周辺にある程度重点的に投下するということや、それだけではなくて農業などの良い点もありますので、それらもきちんと押さえながら、だけれどもある部分は集中的に合理的に投下していった人を集めていくのだということ表現していくことが重要ではないかと思います。そう

ということがうまくいくと、地価が上がってくるかもしれないですが、現状では札幌の人気の高いエリアと比較すると何分の一の値段で土地が買えて、それでいて札幌に近いという魅力的なまちでもありますので、流入人口を増やしつつ、高齢者にもやさしいというところをしっかりと11～13ページのあたりでまずアピールするというか、決意表明をするような文言を追加していくことが重要ではないかと思います。

町村委員

隼田委員のおっしゃることはよくわかります。最終的に17ページの「えべつ未来戦略」で産業活性化が重点的に語られていますが、やはり私は11ページで「3 めざすまちの姿」という表題を掲げるのであれば、この部分である程度きっちりそのことに触れておいた方が良いのではないかと思います。第1回行政審議会の質問に対する回答として配られた、どれくらいの方が市外に通勤しているのかがわかる資料を見ると、江別市はもっと市外通勤者が多いのではないかと感じていましたが、意外なことに半々になっています。北見市や岩見沢市はほとんどが市内で就業しており、逆に北広島市や石狩市などは江別以上に札幌に通勤しています。どちらの方が人口減少傾向にあるかということ、皮肉なことにおそらく自市内での就業者が多い、いわゆる拠点都市の方が人口の面だけで見ると疲弊が進んでいるようです。ちょうどまさに五分五分の江別市がどちらの方向に進むのか。どちらの方向でも良いと思いますが、であるならば欲張ってどちらのことも記載しておけば良いのではないのでしょうか。12ページの「(4)土地利用の方向性」という表題のところで、いわゆる産業活性化に触れるような内容が書かれていますが、これではわかりにくいので、むしろストレートに産業活性化を表現する部分としてまとめた方が良いのではないかと思います。

隼田委員

「(4)今後の土地利用の方向性」の中に、コンパクトシティのことやインターチェンジ周辺の産業集積のようなことが全部盛り込まれてしまっているのも、パンチが弱いのではないかと思います。住む・居住するという観点からアピールする文言としては、コンパクトシティで札幌に近いとか利便性が高いということだと思えますが、それと並べて、新しい産業を周辺部に誘致するという戦略的な土地利用を進めていくということに記載し、表題から「土地利用」という言葉を外してしまって、2本立てで打ち出すと、町村委員がおっしゃっていた両方欲張るという話がより明確になるのではないかと思います。

安孫子委員

11ページの「(1)まちづくりの基本理念」に～まであり、の「協働するまち」の協働の意味をどこまで市民がわかるのかというのが一つ気になります。それと、～の4つを実現するために必要なのがの協働だという記載になっていますが、それであれば～と並列で記載するのではなくて、「(1)まちづくりの基本理念」の前文の部分に記載して、それをもとに～に取り組んでいくという表現の方が適切ではないのでしょうか。それと、協働するという言葉があちこちで使われていますが、実際

に市民同士や様々な団体同士は協働していないのかということになってしまいますので、協働するというのはどういうことを意味しているのかをわかるようにした方が良いと思います。

佐藤会長

江別市自治基本条例の中にも協働のことは規定されていますので、そのあたりをきちんとわかりやすく「(1)まちづくりの基本理念」の前文で表現していくという記載方法の方が良いですね。

さきほど隼田委員がおっしゃった「(4)今後の土地利用の方向性」の表現についてはいかがでしょう。

草野委員

従来の用途地域の指定を大胆に見直す、というような表現の方がより具体的になると思います。たとえば、第1種住居専用地域になっている用途地域を大胆に見直すことによって更なるコンパクトシティ化を図る、というように具体的な例を入れるというのはいかがでしょうか。法律的に難しいのかもしれませんが、全市的な用途地域の総合的な見直しというのは、他ではあまり行われていないと思います。江別の場合はインターチェンジが2つあって、市街化調整区域と市街化区域が分かれています、それを江別市として大胆に見直すという方向性を出せないものでしょうか。

白鳥委員

事務局としてはどのような構成にするつもりでこの骨子をつくったのでしょうか。戦略としては後半で記載するので、そこにパンチを効かせて強調する部分を委ねて、この「3 めざすまちの姿」では抽象論にとどめるという構成にしたのですか。

事務局

今回の総合計画は、江別市がめざすまちの姿とそれを実現するための基本方向を示すということで、ある程度抽象的な表現にならざるを得ない部分もあり、この「3 めざすまちの姿」では力を入れて取り組むことを明確にしていません。力を入れる部分については、17ページ以降の「えべつ未来戦略」の中で重点的に取り組むことを明確にしていきたいという趣旨で、今現在はまとめております。

白鳥委員

そうすると、第1種住居専用地域の用途地域の見直しなど、固有名詞を使うのではなくて、たとえば用途地域等の見直しもはかる、というように丸い言葉にしておいてはいかがでしょうか。実際にどう表現するかは事務局で検討していただき、後でまた審議会でも議論すれば良いのではないかと思います。

安孫子委員

私は都市計画審議会の委員もやっており、都市計画マスタープランでもコンパクトシティの話がたくさん出ていますし、用途地域をどうするかという話も出ます。総合計画に則って進めるという順番から考えると、総合計画の内容がこうなっているので、それ

については都市計画ではこうした方が良いというような議論の流れになります。ですから、総合計画の記載の中にコンパクトシティや用途地域の見直しなどについても含んでいるということになれば、都市計画審議会でも議論しやすくなります。

事務局

都市計画審議会、そして都市計画マスタープラン小委員会を今、総合計画と並行して議論しています。安孫子委員がおっしゃったように、コンパクトシティという位置づけについては、全国的に言う場合と市町村ごとに言う場合で「コンパクト」の捉え方が全く違います。江別の場合は駅を核にした「江別版のコンパクト」という趣旨で説明しています。このあたりは言葉が一人歩きしてしまう可能性もありますので、都市計画マスタープラン小委員会の中でも相当慎重に取り扱っています。もう一つ、都市計画マスタープランの方が若干早めに議論が進んでいますので、その後追いで総合計画が進んでしまうと、趣旨が逆転してしまう可能性がありますので、都市計画審議会の方で総合計画の議論経過を見ながら次のステップに進んでいただくということで調整をしています。そういう面で、具体の議論は都市計画マスタープランの方に委ねると一線を引いた上で、江別市全体の総合計画の中でまちづくりをどうしていくかについて、記載可能な範囲で表現したのが「(4) 今後の土地利用の方向性」の部分ですが、それでもインターチェンジ周辺の土地利用についての記載などは相当踏み込んで記載しています。これを実現するとなると相当大変な話になりますが、今後都市計画マスタープランの方にもこのような表現を入れようということで、都市計画審議会の方をお願いする予定となっています。このあたりは総合計画と都市計画マスタープランを両方睨みながら、調整をかけて作業を進めていきたいと考えています。

白鳥委員

11～12ページについては、最終的に素案がまとまってきた段階で、どのように表現すべきかをもう一度議論したいと考えます。まだ具体的にどのような中身になっていくかわからない状況で適切な表現を考えるのは難しいと思いますので、だいたいすべての議論が終わったときにインパクトのある表現にするにはどうするか、またどこにそれを記載するかといったことについて、再度フィードバックするという形で先に進んでいただきたいと思います。特にここは極めて重要なところだと思いますので、再度議論する機会を設けていただきたいと思います。

佐藤会長

骨子についてはまだ2回ほど議論する機会がありますので、宿題を残しておいてそのときに調整をしていきたいと思います。

#### < 「4 まちづくりの基本方向」について(13～16ページ) >

白鳥委員

政策を7つから9つに増やした理由をもう少し詳しく教えてください。

事務局

できるだけわかりやすくするという視点から、「安全・安心」と「都市基盤」を2つに分けております。「安全・安心」については、えべつ未来市民会議の議論の中でしっかり取り組むべきだというご意見がありましたので、明確にするためにも「都市基盤」と別にすることにしました。もう一つ増えたのが「子育て・教育」ですが、こちらについてもえべつ未来市民会議の中で子育てや教育にもっと力を入れることによって、江別に住む人を増やしていこうという視点の提言がありましたので、それを踏まえて「福祉・保健・医療」と「生涯学習・文化」に分かれて入っていた「子育て環境の充実」と「子どもの可能性を伸ばす教育の充実」を切り出して統合することで明確にしました。

白鳥委員

「生涯学習・文化」のところに、「ふるさと意識の醸成と地域文化の創造」とありますが、これは「子育て・教育」には入らないのでしょうか。大人社会における取り組みのことを指しているのでしょうか。

事務局

生涯学習の観点には子どもについても含まれると思いますが、ここでは「子育て・教育」は子どもについての明確な施策として打ち出したいという意識があり、「生涯学習・文化」の中で整理することにしました。

白鳥委員

言い方を変えれば、大人社会でも「ふるさと意識の醸成と地域文化の創造」といったことが必要なのではないかという考え方があって、「生涯学習・文化」の中に整理したということですね。当然、教育の中にはこの要素も入っているという理解でもよろしいと思います。

河西委員

「産業」のところを第5次総合計画と比較すると、「観光による産業の振興」が新たに加えられた一方で、「就業環境の整備」という項目が外れてしまっています。「就業環境の整備」に関しては、第5次総合計画の達成状況の資料を見ると、3つ基本事業がある中で評価がそれぞれC・D・Dとなっています。それと市民アンケート調査結果でも、重要度が高いにもかかわらず満足度が相対的に低いところに「就業環境の整備」が入っています。いわば市民にとっては満足していないが重要であると認識している「就業環境の整備」が、新しい総合計画では政策展開の方向性から外れて、「商工業の振興」の中の1項目になっていますが、その理由を教えてください。

事務局

「就業環境の整備」を施策として打ち出す上で、市としての取り組みの強さやボリュームといった面でやや弱い部分があり、「商工業の振興」の中に位置づけても良いのではないかと考えました。たしかに第5次総合計画の達成状況の中でC評価になっている部分がありますが、市の取り組みだけでは如何ともしがたい部分が「就業環境の整備」に

はあり、そういったことも含めて市として打てる手立てが弱いことから、「商工業の振興」の中に「就業環境の充実」として柱立てしたという経緯となっています。

河西委員

市の考え方は理解しました。それであれば、たとえば「都市型農業の推進」の中でも、農業の担い手が少なくなっていることもありますので、農業の就業人口を増やしていくということも考えられると思います。「就業環境の充実」に関しては、商工業だけではなく、他の産業分野での「就業環境の充実」ということも考えていただきたいと思います。

安孫子委員

「都市型農業の推進」とありますが、「都市」にこだわる理由があるのでしょうか。

事務局

これまでの第5次総合計画でも全く同じ「都市型農業の推進」という形が入っていました。都市型農業の位置付けについては、8ページの「(3)産業」の「主要作物の収穫量の推移」のグラフをご覧ください。都市型農業と呼ばれているのは、都市近郊型農業とも呼ばれるものですが、大消費地に隣接していて特色のある農業のことと考えています。グラフにあります、レタス・はくさい・ブロッコリー・にんじんといった、消費地に近い立地を活かした品種を作っていくというのが都市型農業の特徴だと理解しています。

安孫子委員

江別市で生産されて、札幌市や江別市だけで消費されているのは大した量ではないと思います。都市型農業という表現でもかまいませんが、ほとんど域外に出ているのが実態かと思いましたので、疑問を提示してみました。大都市の隣にあるから都市型という程度の意味合いでもかまわないと思いますが、そのあたりのことをきちんと把握した上での表現かどうかを確認させていただきました。

湯浅委員

すべて網羅的に組み込むと焦点がぼやけてしまうということはわかりませんが、政策展開の方向性の中項目か小項目のどこかに、雪の文化について記載してはどうでしょうか。除排雪は大変なことですが、雪は天から降ってくるもので、どうしたって避けることはできないものですから、それをもっと楽しいものにしていく市民の工夫や活動といったものを、行政の方で音頭取りや支援をするということをどこかに記載したら良いと思います。たとえば、雪かきは大変ですが、それが隣近所との挨拶などのコミュニケーションにつながったりしますので、雪かきコミュニティの形成とか、雪と友達になるような取り組みとして花コンクールのように、各家庭の敷地の中でいかにきれいに雪かきをするかを競うことで除雪マナーを向上するなど、もっと雪を楽しんでいけるような意識を高めていくことを記載したらどうでしょうか。それと残念なことに、江別だけではない

ですが雪下ろしの際の悲しい事故があります。行政も注意喚起しますが、市民ももっと雪というものを理解した上で、雪と付き合っていくということをどこかに位置付けてほしいと思います。

それと、個別計画との関係もありますし、どこかに一つ一つの政策目標とそれに伴って副次的に生まれる効果といったものを縦横に繋いでいけるような記載を入れてはどうでしょうか。たとえば、農産物を生産するということは、子どもたちの食育につながってきますし、公園や学校の整備は遊びの場や学びの場を整備することが政策目標だと思えますが、そこからコミュニティや交流の場が形成されたり、避難所としての役割も果たすなど、せっかくお金をかけて整備するのであれば、こういった視点から副次的な効果も期待して考えるべきです。個別計画となると担当の部分に力が入ってしまい、副次的な効果がなかなか書き込めないと思いますので、基本的な計画であるこの総合計画の中に、政策目標の実現にむかって取り組むことで色々な副次的効果が期待できるということを基本に据えて、どこかに表現してほしいと思います。

#### 安孫子委員

「安全・安心」の「2 地域防災力の向上」の「(2)防災意識の向上」とありますが、これは行政の意識のことなのか、それとも市民意識のことでしょうか。東日本大震災で津波に対して一番しっかりした反応をしたのは小学校の生徒で、大人の方は躊躇しているうちに被害に遭ってしまったという話がありましたので、それほど市民の防災意識は大事だと思います。自分の身は自分で守るという意識をどういうふうに浸透していくということが重要だと思いますが、そのことをここに位置付けているのでしょうか。

#### 事務局

市民の意識を向上させていく取り組みのことをここでは想定しています。市民の中には当然自治会なども入りますが、そういったところに対する取り組みも含めて、防災意識を向上させていくことが大切だと考えていますので、そのような視点で今後具体的な記載をしていきたいと考えています。

#### 阿部委員

「生涯学習・文化」の「1 生涯学習の充実」について、生涯学習は当然子どもから高齢者までのことだと思いますが、特に高齢者の生涯学習については65歳以上から2年間の蒼樹大学があり、それを卒業すると今度は8年制の聚楽学園があり、それを卒業すると聴講生として何年でも在籍できるため、どんどん人が増えています。高齢者クラブ連合会がありますが、これは年々高齢者が増えている割に会員が減っているのが現実です。会員の話を聞くと、生涯学習の聚楽学園に行った方が楽しいということでした。地域の人と交流する高齢者クラブよりも、知らない人が集まる方が楽しく、教養も身につけることができるし、パークゴルフや旅行や登山といったサークル活動もあります。地域の交流だと煩わしい問題も出てきますので、高齢者クラブよりも聚楽学園などに行く人が増えているのが現実です。それはそれで良いことですが、これからの時代に一番大

事なことは、地域の高齢者を守るということで、そのためにはやはり地域の中で行動する必要があります。生涯学習が充実していくと逆に地域から高齢者が離れていく結果になるものですから、「生涯学習の充実」の中身を精査していかなければならないと思います。

安孫子委員

「産業」の「商工業の振興」について、商工業という括り方で良いのでしょうか。サービス業やソフト産業も含めた良い表現はないのでしょうか。たとえば、食に関して言えば製造業としての食もあれば、農業としての食もありますし、レストランや飲食店などの食もあります。商工業として括ってしまうと、昔ながらの商業・工業という捉え方になってしまってもったいないと思いますので、表現の工夫ができないものかと思います。

岸本委員

「子育て・教育」の「2 子どもの教育の充実」に「(1)教育内容の充実」と「(4)教育環境の充実」とあります。将来年少人口がかなり減っていくわけですが、学校統合ということにまで踏み込んだ内容になるのでしょうか。1学年1クラスが6年間続くというようなことが問題視されていますし、これから10年後を考えると今以上に少子化が進みますので、行政としてもそこまで踏み込んでいくのでしょうか。

事務局

「(4)教育環境の充実」については実際に学校の適正規模化ということも想定していますので、素案にしていく段階で統廃合といったことの検討も含めた記載にしていかなければならないと考えています。

## < 「えべつ未来戦略」について(17~18ページ) >

白鳥委員

「1 ともにつくる協働のまちづくり」の「・恒久的な新しい協働の組織の設立」とありますが、これが何を意味しているのかを具体的に教えてください。

それと、「多様な主体が協働で取り組むためのシステムづくり」とありますが、この協働のシステムというのがどのようなものか全くわからないため、ここに記載してあるその他の3つの項目の内容が全くわかりませんので、説明をお願いします。「市民、自治会、市民団体、企業、4大学、江別市など多様な主体が参加する組織」とありますが、この組織とは一体何なのでしょう。

佐藤会長

えべつ未来市民会議の提言書の11ページに「若者(学生)から高齢者までのマンパワーを活かす持続性のあるシステムづくり~福祉・元気なお年寄・市民活動~」という戦略テーマを掲げています。内容については「どんな状態にしたいのか」の欄に、「市民参加と協働の考え方を基本理念として、「若者(学生)から高齢者までのマンパワー

を活かす持続性のあるシステムづくり」が構築され、市民及び市民団体、企業、4大学、江別市などの連携・協働によるコミュニティ活性化の中核となる新しい組織『えべつ未来づくりのための「江別版COC (Center of Community)」』とあり、組織というのはこのことです。COCは現在文部科学省が推進しているもので、その江別版の受け皿を作ろうという考えです。実際にその組織では「コミュニティ活性化に貢献する人づくりと、それを持続する仕組み「Plan(計画)、Do(実施・実行)、Check(点検・評価)、Act(処置・改善)」から、次々と新たなアイデアが市民参加と協働により生まれ、地域の雇用創造、産業の振興、地域の課題解決、地域のイノベーション創出を可能とする。」という内容で、色々なものをみんなでこの組織の中で実践していこうというものを考えています。江別市自治基本条例の第7章にも市民参加・協働の推進ということが規定されていますので、それに基づいてえべつ未来市民会議で考えたものです。そして国の大学改革実行プランということで文部科学省が取り上げているCOCに当てはめて、江別版のものをつくらうということです。

白鳥委員

簡単に言うと、COCをつくってまちづくりを進めていこうということで、まちづくりの進め方は色々あるけれども、その一つとしてこのような取り組みを進めていこうということです。そうすると、ここで明確に記載するべきは、大学の市民参加だと思います。市民が大学の行事へ参加するなど書かれていますが、それよりも大学が市民活動に参加することが求められているわけですので、そこをはっきりと表現した方が良いと思います。それ無くして、COCはあり得ないと思います。今、大学のゼミでの参加は盛んにありますが、大学全体での参加は無いです。そこをちゃんとやろうというのがCOCだと思いますので、そこを明確にしなければ新しい組織をどうすると議論したところで、実効性はないと思います。

佐藤会長

大学としては学長や理事長など色々な考え方がありますが、一生懸命活動されている先生方が連携しながら、江別が活性化するようにまちづくりに参加していこうと考えています。

白鳥委員

総論についてはかまいませんが、「4大学が活躍するまちづくり」のところに「大学の行事への市民参加」とありますので、これをするなら大学が市民参加をするべきだということを言いたかったのです。どのような記載にするのかは、今後検討していけば良いと思いますので、色々議論させていただきたいと思います。

佐藤会長

新たな組織の設立というところが、我々が市民会議の提言のときに強く話をしていた部分です。江別独自のものができるという認識でいます。

岸本委員

白鳥委員のおっしゃるとおりで、今まで色々なゼミ単位や個別のイベントでは大学生

や先生方が参加してくれていますが、もっと大きな意味で言えば、大学そのものがこのまちと関わっていくということを強く押し出すために、もう一つ記載を加えた方が良いと思いました。

佐藤会長

この規模の自治体で市内に大学が4つもあるのは、道内では江別市くらいです。それを活かしてしっかりと連携しながら新たな展開を目指すということで、市民会議での提言をしたところです。

安孫子委員

「2 えべつの将来を創る産業活性化」に「環境に優しい再生可能エネルギーを活用した産業の振興」とあります。その取り組みとして「・環境配慮型企業の誘致」と「・環境負荷の少ない循環型農業の推進」とあり、それはその通りだと思いますが、大事なものは家庭あるいは産業でのエネルギー負荷を軽減するとか、省エネをはかっていくというようなことだと思いますので、そのような文言があっても良いのではないかと思います。再生可能エネルギーという言葉は流行だと思いますが、実際に目指すのはエネルギー負荷を減らすことだと思います。

町村委員

「2 えべつの将来を創る産業活性化」の中で観光について触れてありますが、「地域資源の活用による観光の活性化」の中の4つの項目をよく読むと、すべて同じことが書いてあるように読めます。2番目は「・食と農業の観光資源化」なので具体性がありますが、広くいえば「・地域資源の観光への有効活用」ということでしょうし、3番目の「・観光資源の発掘」はすべてを網羅していることではないかと思います。4番目の「・観光資源のネットワーク化」は発掘された資源をネットワーク化していくということですから別かかもしれませんが、整理の仕方を工夫した方が良いのではないのでしょうか。

それと、「農業を核とした産業の育成」の中に「・1次産品の価値を高める江別ブランドの創出」とあり、ここで江別ブランドというのは1次産品を意味していることが理解できますが、14ページのまちづくり政策の「産業」のところで「3 観光による産業の振興」の中に「江別ブランドの確立」が入っています。これ自体は変ではないかもしれませんが、戦略では1次産品で江別ブランドを創出するとなっているのに、まちづくり政策では農業分野である「都市型農業の推進」に江別ブランドのことが入っていませんが、これはどのように理解すれば良いのでしょうか。農業分野において江別ブランドを創造して、それを確立させるのが観光に期待されている一つの役割というふうに理解すれば良いのでしょうか。

事務局

観光のところという江別ブランドの確立というのは、戦略のところにある農業分野で創出した江別ブランドを、観光の中での産業の振興に活かしていきたいという視点で記

載しています。さらに、農業分野だけでなく、観光の面での江別ブランドというものも想定できると思いますので、観光のところではもう少し江別ブランドの意味合いを広く取りたいと考えているところです。

蛸名委員

江別ブランドについては、PRのことについても触れた方が良いでしょうと思います。

佐藤会長

その点については、えべつ未来市民会議でも多くの意見が出されましたので、それを踏まえて18ページに「4 えべつの魅力発信シティプロモート」としてまとめてあります。

湯浅委員

既に記載されているようですが、産業、教育、生涯学習、地域福祉、国際交流など各分野ごとに人材育成は重要ですので、位置付けが必要だと思います。

#### **(4) 部会の設置について**

(意見・質疑等なし)

#### **(5) その他**

第1部会 4月17日(水) 18:00~

第2部会 4月10日(水) 18:00~

第3部会 4月15日(月) 18:00~

**閉会**